



館長だより

山形県産業科学館

令和6年12月24日(火)

発行 館長 加藤智一

私は吸ったことが無いもので

やまぎん県民ホール前のイベント広場では、クリスマスマーケットが開催されており、連日寒い中多くの方々が、特に夕方からおいでになり、賑わいをみせております。今ではすっかり『クリスマスにおける商業活動の促進』といった意味合いが強くて、全国各地、多くの場所で開催され、食べ物や飲み物を提供するブースもあり、結構夜遅くまで盛り上がっているようです。もともとは16世紀、ドイツのニュルンベルクに始まり、家族や友人との時間を大切にするために、多くの人々がプレゼントを贈るために買い物をする場所であり、地元の農家や工芸作家達が自分達の商品を販売する場所でもあったと聞いております。

ところで話は戻りまして、私が気になったのは、やまぎん県民ホール前のイベント広場で開催されている「やまがたクリスマスマーケット 2024」の開催に合わせたかのように新設された「トレーラーハウス」タイプの喫煙所。屋外でタバコ吸っている方はほぼほぼお見掛けしなくなったご時世にあって、「必要あるのか!!」と思ったしだいです。しかし、現在、例えば580円(20本入り)のタバコの場合、消費税が52.73円、国税と地方税それぞれ152.44円が含まれていますので、税金だけで合計357.61円となり、実に61.7%は税金ということになります。そして、その税収は、国税と地方税のそれぞれにおいて、年間1兆円(合計2兆円)にもなり、国と地方の貴重な財源の1つとなっています。そうした意味では、愛煙家は貴重な納税者という見方もあるわけで、喫煙所を設置することは、それなりに説明のつくことなのかもしれません。

とは言え、私はタバコを吸ったことが無いもので、世の中で盛んに言われている健康被害をものともせず、吸い続けられている方々の気持ちは分かりませんが、どうやら「加熱式タバコ」と「電子タバコ」は違うものらしいですね。今さらそんな事も知らないのかと言われそうですが、そんな感覚の方、けっこうおられるのではないかと思います。調べてみました。

「加熱式タバコ」は、タバコの葉に直接火を付けるのではなく、タバコの葉に熱を加えてニコチンを発生させる喫煙具として、煙が出ないかわりに、タバコに含まれるグリセリン類によって蒸気を発生さ

せます。また「加熱式タバコ」には200℃を超える高温で加熱するものと、40~60℃の低温で加熱するタイプがあるらしく、高温タイプの方が喫味が強く、臭いも強いらしい。タールの量は9割以上減少し、人体への悪影響が紙巻タバコに比べて低減しますが、タバコ税がかかる立派なタバコです。Wikipediaによると、「加熱式たばこ」は従来のたばこに比べ「健康への悪影響が少ない」という主張はたばこ産業が出資した研究に基づくもので、このことを裏付ける、たばこ産業から独立した信頼できる研究は存在せず、説得力のある証拠はないというのが本当のところ。また、加熱式たばこの副流煙や健康被害についても研究段階で、科学的に証明するに至っていません。

方や「電子タバコ」とはいかなるものかと言うと、タバコ事業法のタバコ製品や喫煙具類には分類されず、雑貨類に分類され、20歳未満でも購入可能ですが、販売店側では、20歳未満が購入しないように、働きかけをしているそうです。その仕組みは、液体を電熱線の発熱により気化させてエアロゾルを発生させて、それを吸引するというもの。国内では、ニコチンを含む液体は販売されていないようですが、ある意味怖いのは、危険ドラッグに相当するような危ないものも、その気になったら入れられるということで、やっぱり20歳未満にはお勧めできないな。

